



きぬこかい新聞

発行
国土交通省
下館河川事務所
きぬこかい情報発信局

〒308-0841
茨城県筑西市二本成1753
Tel. 0296-25-2161
HPアドレス
<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/>



結城市と『鬼怒川洪水情報伝達演習』を実施

二月二十七日(水)、下館河川事務所では、結城市と合同で鬼怒川洪水情報伝達演習を実施しました。

昨年度の小貝川での演習(取手市と合同で実施)に引き続き、本年度は下館河川事務所と結城市が連携し、鬼怒川において洪水による堤防決壊が発生したことを想定して地域住民の避難訓練なども含めた演習を行いました。

演習では、実際の災害発生時において、洪水対策及び重大災害対策への判断・指導・実施が迅速かつ適切に対応するため、下館河川事務所の職員と沿川自治体の職員が、情報伝達や、避難勧告の発令の検討、災害復旧工法の検討等などの実働演習を行い、災害対応の充実をはかっています。

結城市長 下館河川事務所長 (スカイプを活用したホットライン)



結城市長と下館河川事務所長間のホットラインにより、重要情報の迅速かつ確実な共有がなされました。

結城市災害対策本部



リエゾンを結城市へ派遣し、積極的に情報の収集や提供をする訓練を行いました。

下館河川事務所洪水対策支部



水防活動状況、河川や内水の被害情報、今後の水位予測、浸水予測を収集・整理し、避難勧告発令等を判断し住民の安全確保や避難状況把握の演習を実施しました。

情報連絡員派遣(通称リエゾン)



下館河川事務所管内の河川工事が完成

下館河川事務所管内では、出水期終了後、約四十箇所河川の河川工事をしていますが、続々と完成しています。

鎌庭出張所管内では、茨城県常総市中妻町地先で施工されていた「三妻低水護岸工事」が三月十一日に完成しました。本工事では、洪水時の河岸浸食防止のため、低水路に新たにかごマット工法による護岸を施工し、その前面に根固めブロックを設置することで河岸が強化されました。かごマットの上に土を施したことで植生を促進し、より早く緑豊かな景観の復元が期待されます。



鮭の稚魚を放流しました

二月二十四日(日)真岡市の五行川(東郷公民館下)において、NPO法人により、鮭の稚魚放流式が行われました。

この式は、鮭守の会の方々が、秋に遡上した鮭から採卵し、孵化させ、日々の温度等を管理し育てた鮭の稚魚約五万匹を放流したもので、今年で十年目を迎えました。

また、真岡ミュージカルの子供たちは、鮭守の会の活動をミュージカルにして踊り、四年後には元気でふるさとの五行川に帰っておいで!と声をかけ、放流を手伝いました。稚魚を放流できた喜びで鮭守の会の皆さんは、笑顔であふれていました。



桜前線、北上中!

今年の桜は、平年より早く咲くようです。東京では三月十六日に過去最早タイで開花することにより、眠りから覚め、開花の準備を始めます。

今年の冬は低温で経過し、三月からは平年を上回る気温の高い日が続いています。このため桜の目覚めが早くなったようです。鬼怒川・小貝川沿川には、桜の名所と なっている箇所があります。

桜満開の鬼怒川・小貝川で春を満喫してみてくださいいかがですか。



※写真は全て昨年以前に撮影しています※

鬼怒川のカワラノギク 保全活動継続中

鬼怒川では外来植物のシナダレスズメガヤの急激な繁茂に伴い、礫河原固有生物のカワラノギク等を保全するために、市民・学校・研究者・行政が「鬼怒川の外来種対策を考える懇談会」を通じて情報交換・情報共有をし、保全のための取り組みを協働で行っています。

氏家大橋上流左岸の東大実験地での保全活動には、年々参加者が増加しこれまでに延べ約二千五百人となっています。

また、昨年は新たに上三川町でもカワラノギクの保全活動の場が設けられました。環境省レッドデータブックでは絶滅の危険性が高い絶滅危惧ⅠB類ですが、栃木県では絶滅危惧Ⅱ類で危険度はワンランク下です。カワラノギクは全国で4県しか生育しておらず、Ⅱ類の県は栃木県のみです。これは地域の自然を守る各団体が保全活動を持続的に行っている効果が現れているものと思えます。今年も保全活動を行いますのでぜひ参加して下さい。



第6回懇談会の状況

